

施設ブドウ立木仕立整枝法に関する研究

土居新一

施設内空間の立体利用と太陽エネルギーの有効利用による収量増加と作業能率の向上を目的に、施設ブドウの立木仕立整枝法について検討し次の結果を得た。

1. 樹体の生育生長量は、立木仕立と傾斜棚仕立との間に差が認められなかった。
2. 立木仕立は単位面積当りの樹冠占有面積を拡大し、有効枝葉を増大確保することができるため、収量は、傾斜棚仕立に比べ 30%増加することが判明した。
3. 立木仕立の栽植密度は、日射量や枝の登熟状況からみて 1.8m 前後が適当で、それ以下では光線不足となり、枝の登熟不良や品質低下を起した。
4. 太陽光線を有効に利用するためには、樹高は 2m とし、結果枝を南北交互に出し、並木状に配置するのが適当であった。
5. 立木仕立では上部の果房ほど早く着色し、熟期は進み、収穫時期は早まるが、下部はやや遅れる傾向がみられた。
6. 立木仕立にすると、摘粒等の手作業が正常位の姿勢で実施できるため、疲労少なく能率的で、栽培管理上の労力は大幅に節減できることがわかった。